

今年度の研究大会を振り返って…

平成20年度 網走管内国際理解教育研究大会 美幌大会

(大会主題) **自分と地球をつなぎ、未来を切り開く児童生徒の育成**
 ～世界を感じる地球の子どもをめざして～

平成20年9月12日(金) 美幌小学校を舞台に管内の国際理解教育研究大会が開催されました。

まずは、興部中学校の上森奈緒美教諭によるワークショップ「国際理解教育の考え方、進め方～目からうろこの授業づくり」から。

私たちが挑戦したのは、



- ①非コミュニケーションにより、3～4ほどのパーツでA4サイズの口を作るパズル

私たちのグループは、割とあっさりとできましたが、他のグループはなかなか試行錯誤？自分のこだわりを捨てないと、なかなかできないのです。これにより日常においてのコミュニケーションの重要性に気づかされました。いつまでも思いこみのままではできないのですよ。

- ②自分だけの無人島に山、川、畑、家、漁場を描き、それぞれのこだわりをアピール。グループの絵意で大きな紙に島を描く。



「基本的人権」について考えるきっかけとしての活動となりました。それぞれのこだわり、楽しかったですね。温泉やヘリポート、高層マンションまで登場したり、男のロマン？を貫いたり…

こういった活動を通して、様々なことを考え、伝えあい、そして認め合うことを学習させていただきました。とても楽しく、参加された皆さんも和気あいあいとした雰囲気、ちょっとだけ生徒にもどって活動することができました。上森先生、ありがとうございました。

研究授業は相馬一之教諭による「つながろう世界の人たちと」の単元での授業。チェコ、アメリカ、中国、韓国からの5名の留学生と元気な5年生が楽しく交流する場面を見せていただきました。日本の文化、折り紙、お手玉を伝えたり、相手の手や体に触れたりすること、近くで見ることも含め、積極的に交流できていました。

なかなか来校する留学生が確定できなかったこと、英語で質問される方もいて、翻訳に手間取ったこと、また交流する人との打ち合わせが全くできず、こちらの意図も伝えられなかったことなど、準備の大変さを知りました。



交流することが目的ではなく、コミュニケーション能力の育成、伝統文化の理解が目的です。「自分たちと同じだ」という気づきがありました。違いに気づくことも大事ですが、同じだと気づくことも大事。共生という意識が見られた授業でした。ありがとうございました。

その後は長浦指導主事を招いてのパネルディスカッション「英語活動はこう進めよう」でした。そこではこれから始まる英語活動についての様々な意見・質問がかわされました。参加された皆さんはどう感じられましたか？今の時点では、もう各校で準備が進められていることだと思いますが、未だに不安を抱えているのではないのでしょうか。私もまだまだ勉強不足でよくわからないことばかりですが、参加者の皆さんには、英語活動のねらいや本研究会の今後の取り組みなどについて考える機会にさせていただけたようです。今後の英語活動に向けて、活発に情報交換をし、よりよい活動になるように考えていきましょう。パネラーのみなさん、ありがとうございました。

パネラーとしてご協力いただきました

上湧別町立開盛小学校 佐々木寿彦 先生

大空町立女満別小学校 吉本 隆 先生

網走市立網走小学校 池田潤 先生

西興部村立西興部中学校 倉田忠彦 先生

北海道国際理解教育研究大会空知大会 参加報告

上常呂小学校 佐藤 文昭

○北海道国際理解教育研究大会空知大会 平成20年10月10日（金）11日（土）

～ 岩見沢市 美唄市

長沼町研究授業について

長沼町立北長沼小学校 加藤 康徳 教諭

「わたしたちのくらしと環境」 社会科 小学校5年

水の問題について、「仮想水」(バーチャルウォーター)という概念を用いて考えさせる授業であった。

日本が輸入している様々な農産物は、それぞれを育て収穫するまでに、たくさんの水を必要とする。水に視点を当てると、日本はたくさんの水を海外から輸入していると考えることができる。そこで、自分の好きなメニューを考え、必要な「仮想水」がどのくらいになるのかを調べ、世界とのつながりについても考えるというものだった。

また単元の後半では、アメリカ農業について食の安全の観点から不安を覚え、アメリカ合衆国から長沼町にやってきたという方（参観したクラスの児童の親）をゲストに招き、それらのことについて話を聞くということであった。

授業の感想

「仮想水」（バーチャルウォーター）という視点で輸出入を考え、水問題や食糧問題について考えてみるという発想は素晴らしかった。ただ、授業の始めに「仮想水」について「茶碗1杯のご飯で278㍓です。」と説明してしまったが、もっとたくさん予想させイメージをふくらませながら最後にそれを伝えると児童に驚きもあったと思った。さらに田植えのために必要な水や育つために必要な水と関連させながら説明をし、児童に「だからこれだけ必要なんだ。」と納得させることで、その後の活動に対する取り組み方や集中度が増したのではないかと思った。

単元全体としては、地域の米作りと地域の名水（マオイの水）から貿易、世界の水や食糧の問題につなげ、最後にはまた地域の米作りの素晴らしさ（安全・安心な米作り）や水の大切さに気付かせ、私たちに今できることは何かを考え実行するところまでを視野に入れており、考え方としてはたいへん素晴らしいと思った。

以後の授業で、どんなことが実際に行われ、最後にどうなったのかたいへん興味深い。

講演

演題「子どもの輝きを支えよう」～金本位制から人本位制へ～

株式会社植松電機 専務取締役 植松 努 氏（カムイ型ロケットを作った方です。）

ひさびさに講演を聴いて感動しました。植松さんの子どもの頃の夢が様々な形で否定され、しかし、ほんとにできないかやってみようという考えのもと、ほんとにロケットを作り NASA ともつながりのある企業にまで成長した話です。仮面ライダーもタイガーマスクも巨人の星も出てきます。誰か一緒に北見にも呼びましょう。PTA 向けにも企業経営者向けでもよいと思います。全国の高校や大学でも講演しているようです。

編集後記:

学芸会、参観日、研究授業などに追われ、忙しい日々をお過ごしていただいた会員の皆様、お疲れ様です。会報紙2号の発行が遅れまして申し訳ありません。今回は研究大会を振り返る内容でしたが、忙しい中に研究大会に参加された皆さん、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。原稿依頼に快く応えていただきました研究部長の佐藤先生、ありがとうございました。次年度もよりよい活動になるように頑張りましょう。参加できなかった会員の方も、ぜひ来年度はご一緒いたしましょう。ホント楽しいですよ。(^-^)

網走管内国際理解研究協議会 会報「地球市民」2号 文責； 情報部部长 相内小 長崎 祐紀

（おねがい）会費の納入はお済みでしょうか？3,000円です。まだの方、お忘れの方は下記の口座までお願いします。お問い合わせは会計、豊丘小学校 小野寺哲浩教頭先生まで

■ 口座振込 郵便局 19980-3387981 小野寺哲浩 宛